

EBM 臨床支援ツールの比較

鈴木 孝明

奈良県立医科大学附属図書館

EBM(Evidence Based Medicine)を実践する上での手法は、次の「5つのステップ」で表される。ステップ1：患者の問題の定式化、ステップ2：問題についての情報収集、ステップ3：情報の批判的吟味、ステップ4：情報の患者への適用、ステップ5：1～4のステップの評価。現在、各学会で盛んに行われている診療ガイドラインの作成においてもこの手順に則っている。このうちのステップ2を行うにあたって、さまざまな形態の情報源が存在し、次の5つのレベルに分けて、段階的にアプローチすることが提唱されている。

5S アプローチ

- Systems** : 個々の患者情報にマッチした決断支援システム (Isabel など)
- Summaries** : 以下の層の情報をまとめて要約したもの (UpToDate、DynaMed など)
- Synopses** : 原書論文やメタ分析などの要約 (ACP Journal Club など)
- Syntheses** : メタ分析、システマティックレビュー (The Cochrane Library など)
- Studies** : 原書論文 (PubMed、医中誌など)

多忙な医師にとってエビデンスレベルの高い情報源を容易にかつ迅速に入手できることが重要であり、上記の「Summaries」がそれにもっとも該当する。そのため、臨床支援ツールとして次々と新サービスがリリースされてきた。トピックの網羅性を重視したものから、エビデンスレベルを重視したためにトピック数が限られているものまで多様化しているのが現状である。さらに元来個人向けに提供されていたために、機関で契約するには多額の負担を要するものもあり、図書館での導入に躊躇するケースが見受けられる。

そこで、特定非営利活動法人日本医学図書館協会から今年度の研究助成を受けて、本学で契約している代表的な4種類のツール (UpToDate、DynaMed、ACP PIER、Clinical Evidence) を中心に、具体的なクリニカル・クエスチョンに基づいた内容の評価を行うこととなった。

ここでは、この研究に先立って代表的な臨床支援ツールをピックアップし、その仕様や特徴を紹介する。

参考文献

- 名郷直樹. ステップアップ EBM 実践ワークブック:10 級から始めて師範代をめざす. 東京:南江堂;2009.